

『普通学校朝鮮語読本』の表記について

その他のタイトル	『普通 學校 朝鮮語 讀本』? ??? 表記? ???
著者	佐野 三枝子
雑誌名	関西大学外国語教育フォーラム
巻	12
ページ	87-101
発行年	2013-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10112/9560

『普通学校朝鮮語読本』の表記について

『普通 學校 朝鮮語 讀本』에 보이는表記에 대하여

佐野 三枝子
Mieko Sano

1923년부터 1924년까지 朝鮮 總督府에서 編纂된 『普通 學校 朝鮮語 讀本』에서, 語中の 有聲音을 表記하는 方法과 母音이 後行할 경우의 ‘ㅎ’ 表記, 그리고, ㅎ 末音 體言의 表記를 考察하였다. 語中の 有聲音 表記에는 再音素化式 表記가 많았다. 母音이 後行할 경우는 ‘ㅎ’ 이 脱落한 表記가 많았다. 다만 ‘ 좋다 ’ 같은 連綴 表記와 重綴 表記 두 가지가 共存되어 있었고, 有聲의 環境에서는 ‘ㅎ’ 을 表記하였다. 이러한 点에서도 ‘ㅎ’ 이 變化해 가는 모습을 알 수 있다. ㅎ 末音 體言은 모두 ‘ㅎ’ 이 脱落되어 있었다. 그러나 ‘ㅎ’ 의 痕跡을 傳해 주는 예인 ‘ 하나이 ’ 라는 表記가 있었다는 點이 注目할 만하다.

キーワード：普通学校朝鮮語讀本、朝鮮總督府、子音 ‘ㅎ’、ㅎ 末音名詞

1.はじめに

朝鮮語の子音 ‘ㅎ’ は、有声音である母音と子音 ‘ㄴ, ㄹ, ㄷ, ㄹ’ の間では有声音になり、子音 ‘ㄱ, ㄷ, ㄹ, ㅂ’ の前後では有気音 ‘ㅋ, ㅌ, ㅍ, ㅊ’ になる。そして、音節末にある場合は後に母音が続くとは発音されず、母音のように聞こえる。もう一つ、現代語には見られないが、‘ㅎ末音名詞’ と言われ、特定の名詞の末音としても記されていた。たとえば、現代語 ‘上 (위)’ は古語では ‘우ㅎ’ であった。

形容詞 ‘高い (높다)’ は、古語では ‘높다, 높다, 높프다, 높ㅎ다’ などであり、‘높은 (高い...), 높흔 (高い...), 높흐며 (高く)’ などと記されたことが文献からわかる。語中の有気音を表わす方法として、このように、平音 ‘ㄱ, ㄷ, ㄹ, ㅂ’ の後に ‘ㅎ’ を表記するものが近代朝鮮語の資料では数多く見られる¹⁾。そして、このような表記は1900年前後に刊行された学部編纂国語教科書と修身・倫理教科書でも確認される²⁾。また、ㅎ末音名詞である ‘우ㅎ’ を ‘우회 (上に)’ と、‘ㅎ’ を伴って記している箇所があった。‘ㅎ’ の表記の様子を調べることを通して、文字と発音の関係を学び、単語の成立、変遷を知る助けとすることができると考える。

本稿では、開化期の過渡期的様相を示している学部編纂教科書の後、十年以上を経た1923年から1924年に亘って朝鮮總督府により編纂された 『普通学校朝鮮語読本』 六冊について、子音 ‘ㅎ’ の表記のうち、語中の有気音表記と後に母音が続く場合の表記、そして、ㅎ末音名詞の表

記の様相を明らかにし、考察する。使用する資料は、関西大学所蔵『普通学校朝鮮語讀本』（翻刻版）六冊である。

2. 『普通學校朝鮮語讀本』について

資料の体裁を簡潔に紹介する。

巻一のみ目録を欠く。全62項目、72頁と附録半張から成る。各項目の初めに順序を表わす漢数字を付し、四十四からは題名も付けている。最初の張の一行目に‘普通學校朝鮮語讀本 卷一’と書き、次の行に課数を表わす漢数字を書く。最終張の終わりの行は‘普通學校朝鮮語讀本 卷一終’である。以下の巻も同様である。各項目はほぼ半張に収めているが、十九と五十三から五十八、六十から六十二は、張の裏から次の張の表、一張に載せている。内容は、一、母音字11文字、二、子音字14文字、三、‘ㅇ’ 行の文字11字、四、‘ㅇ’ 行の文字を持つ単語とその挿絵と続いていく。四十三以降は短い文章や練習、なぞなぞである。四十四からの文章は、ほとんどが一頁7行、一行15、6字で、ほぼ各項目に挿絵がある。各張の上段には新出単語を載せ、漢字については附録に漢字解としてまとめ、音訓を示している。巻二以降も同じである。

巻二は目録一張、29の項目80頁と附録2張から成る。一頁7行、一行15、6字である。一項目の文章は一張から一張半程度の長さで、巻一に比べ、長くなっている。

巻三は目録一張、27項目82頁と附録2張半から成る。一頁9行で、一行は18、9字である。巻三までは分ち書きをしているが、助詞も一字空けて書いている。

巻四は目録一張、25項目93頁と附録4張半から成る。一頁9行、一行18～20字である。

巻五は目録一張、第一課から第二十六課まで102頁と、附録4張から成る。一頁は9行で一行は19、20字である。

巻六は目録一張、第一課から第二十七課まで112頁と、附録3張半から成る。一頁9行、一行19、20字である。

内容を見ると、朝鮮総督府編纂『普通學校朝鮮語讀本』の中には、学部編纂国語教科書と修身・倫理教科書の題名および内容が一致するもの、題名は異なるが同じ内容を扱ったものなどが何組かある。『普通學校朝鮮語讀本』巻二 十一小野道風と、『新訂尋常小學』巻二第十二課小野道風の이이기가라、『普通學校朝鮮語讀本』巻二 十八慾心 만은 개と『新訂尋常小學』巻一第二十課貪心잇는개라、『普通學校朝鮮語讀本』巻四第一이웃四寸と『普通學校學徒用修身教科書』巻二第二課隣人은四寸、『普通學校朝鮮語讀本』巻五第五課一家和睦と『普通學校學徒用修身教科書』巻二第八課一家和睦、および、『新訂尋常小學』巻一第二十一、二課和睦 家眷一、二、『普通學校朝鮮語讀本』巻五第七課清潔と『普通學校學徒用修身教科書』巻二第十二課清潔、および、『新訂尋常小學』巻一第二十五課清潔히게하라、『普通學校朝鮮語讀本』巻五第二十三課禮儀と『普通學校學徒用修身教科書』巻三第二課、『普通學校朝鮮語讀本』巻六第二十四課玉姫의

『普通学校朝鮮語讀本』の表記について（佐野）

慈善と『普通學校學徒用修身教科書』卷三第十二課慈善などである。

3. 子音 ‘ㅎ’ の表記の考察

子音 ‘ㅎ’ の表記を考察する前に、参考までに、学部編纂国語教科書と修身・倫理教科書で、語中の有気音を表記した例と ‘ㅎ’ に母音が続く場合の表記、そして、ㅎ末音名詞の表記の例を一、二例ずつ挙げる。

『國民小學讀本』（1895年）

或큰나무를세워그우희皮物を끌고답히因히야（第五課五張裏）

世界萬國스이도다그멋치못홀슈업느니라（第六課七張表裏）

이나라에는海面이만하（同七張裏）　至今도그와긔法을쓰느니라히或잇느니라……그一片밋해小孔을穿히야（同十二張表裏）

『小學讀本』（1895年）

立世에愛民치아나리업느니라（第一一張表）　聖君갓히시면（同二張表）

『新訂尋常小學』（1896年）

뜻기는만이흡이을치.（卷一第十三課九張裏）　決斷코이돈을虛費치아나코（同第十四課十張裏）　것히서맛아들이집을츄리며（同第二十二課十八張表）

『修身・倫理教科書』（1905年）

他人의압헤서欠伸을ㅎ거나（卷三第二課四頁）

禮儀에合當치못ㅎ지라.（同五頁）　조히ㅎ장이라도（卷一第十四課四十四頁）

畫帖을보고甚히도화ㅎ야（卷一第十五課四十五頁）

まず、語中の有気音表記について、次に、‘ㅎ’ に母音が続き、発音されなくなる場合、すなわち、有聲的環境で ‘ㅎ’ が脱落している例と、語幹 ‘ㅎ’ に母音が続いて ‘ㅎ’ を表記している例、そして、ㅎ末音名詞について考察する。なお、各巻附録の漢字解にも該当する表記は見られるが、本文のみを対象とする。また、副詞形である ‘急히（急いで）、대단히（非常に）’ なども各巻に数多く見られるが、対象としない。

語中の有気音表記については洪允杓（1993：166、432-4）の三つの分類に従った。連綴表記、重綴表記、再音素化式表記である。連綴表記は、語幹末子音 ‘ㅎ’ に子音語尾 ‘-고、-다、-지’ などが続いた場合に、‘너코（入れて）、조타（よい）、올치（そうだ）’ と表記するものである。

重綴表記は、語幹末子音が有気音であり、後に母音が続いた場合に、‘것트로 (傍に)、꽃을 (花を)’ と表記し、語幹末子音が ‘ㅎ’ で、‘-고’ などの子音が続いた場合に、‘낫코 (生んで)’ と表記するものである。再音素化式表記は、語幹末が有気音で、それに母音が続いた場合に ‘것호로 (傍に)、깊흔 (深い...), 만흔 (受け持った...)’ と表記するものである。

『普通学校朝鮮語読本』は再音素化式表記が半数以上を占める。次に多いのは連綴表記である。重綴表記は ‘낫다 (生む)、(～)넣다 (入れる)、(～)놓다 (置く)’ の三語と ‘좋다 (よい)’ のみで、8例見られる。また、語幹末子音 ‘ㅎ’ を持つ ‘놓다’ と ‘좋다’ のみに連綴表記と重綴表記との混記の例が見られる。用例は付録の資料に提示する。ここでは、代表的な用例一、二例のみ挙げる。それぞれの用例、その巻数、課数、頁数、行数の順に示す。

再音素化式表記

例：江面을덥혀서 卷四 十二41-1 맞하보고, 卷六 二十84-6
 붓흔 脂肉을 卷六 二十六 百六 -5 맞도 살혀보고 卷三 八21-3,4

連綴表記

‘놓다’ 例：압헤 노코, 卷三 十七55-9 각시를 세워노코 卷二 二十三61-3
 ‘좋다’ 例：조켓습니다. 卷三 一4-3, 十31-7,8 宜도조타 卷四 十四47-2

動 詞 ‘-하다’ 例：行치못하시고, 卷六 七28-5
 避치아니합니다. 卷四 十九70-7

形容詞 ‘-하다’ 例：귀치안튼 卷二 十七3-1

重綴表記

‘놓다’ 例：터 낫기도 하오. 卷三 八21-6,7
 낫치 아니하얏소 卷二 十九53-5,6
 ‘좋다’ 例：조켓지 卷五 三10-9, 11-1

次に、有聲的環境で ‘ㅎ’ が脱落している例と、語幹 ‘ㅎ’ に母音が続いても ‘ㅎ’ を表記している例を挙げる。

有聲的環境で ‘ㅎ’ が脱落している例：

動 詞 ‘넣다’ 郵便筒에너엇섯소. 卷四 一7-1,2
 ‘놓다’ 노아달나고 卷二 十九52-5
 ‘좋아하다’ 조와하는食物 卷六 一2-2,3

- 形容詞 ‘ 많다 ’ 그種類가만으나, 卷四 十三45-6
副詞 ‘ 많이 ’ 만이 卷二 九19-5 他、多数
補助動詞 ‘-지 않다 ’ 갈지안으면, 卷五 二十一76-1

この用例はこの動詞と形容詞、六語の他に、次のような名詞にも見られる。

- ‘ 너희들 ’ 너의들 卷三 一2-1
‘ 저희 (들) ’ 저의 卷五 二7-8 저의들 卷三 一2-2, 4-1
저의들은 卷三 一4-1 저의들의 卷五 二4-8
‘ 올해 ’ 올해는 卷四 十四50-5

ところで、‘ 좋다 ’は有聲的環境で‘ㅎ’を表記している例も見られる。この表記は、名詞、副詞などにも見られる。

有聲的環境で‘ㅎ’を表記している例：

- 動詞 ‘ 싫어하다 ’ 勤勞를실허안코, 卷六 二7-2
‘ 싸우다 ’ 싸호라한즉 卷五 二十二78-7 싸홀수도 卷六 二十84-3
形容詞 ‘ 좋다 ’ 가장조흔일이오. 卷四 一3-5
日氣가 조흐나 卷二 十九50-2
名詞 ‘ 싸움 ’ 눈싸홀 卷二 二十四65-5
‘ 안해 ’ 안해가 急히 卷三 二十三73-4
‘ 종이 ’ 조희는 卷五 十三53-8
副詞 ‘ 너울너울 ’ 各色草木너홀너홀 卷四 八26-8

先に示した学部編纂教科書の例は、『普通学校朝鮮語読本』に見られたものを一、二例示したものである。語中の有氣音の表記は共通しているものが多いが、『修身・倫理教科書』の‘ 조희 (紙) 、 豆화ㅎ야 (好んでこそ) ’と『普通学校朝鮮語読本』の‘ 조희 、 조와하는 (好む...) ’からは表記の変遷がわかる。

動詞‘ 好む (豆화ㅎ다) ’は、形容詞‘ よい (똥다) ’に補助動詞‘ -아ㅎ다 ’が付いてできたものであり、現代語は‘ 좋아하다 [tʃɔ:ahada] ’である。古語は、‘ 豆화ㅎ다 (好) ’が『同文類解』(1748)に、‘ 조하ㅎ노라 ’が『靑丘永言』(1728)に見られる。形容詞‘ 좋다 ’の古語は‘ 똥다, 좋다 ’である。ところで、日本語のハ行音は[F]から[h]に変化している³⁾。‘ 豆화ㅎ야 ’と‘ 조와하는 ’も、‘ 화 [hwa] ’から[w]が脱落して、‘ 하 [ha] ’になったものであり、‘ 조화하는 ’と綴るところを有聲的環境であるため、‘ㅎ’を脱落させて‘ 조와하는 ’と表記したのではないかと考える。

洪允杓(1993: 334-5、435)は、『音韻捷考』(筆写年代不詳)に有聲的環境で‘ㅎ’が脱落し

ている例があること、『太上感應篇圖說諺解』(1880)に、動詞‘-ㅎ다’から‘.’が脱落して、後行子音と結合して有気音になったときには連綴表記のみが見られることを述べている。『普通学校朝鮮語読本』もそれぞれ同様の例があり、後者には形容詞の例も見られる。また、洪允杓(1993:190)では、1908年に刊行された『新訂千字文』を考察している。洪允杓(1993)の文献の中では最も刊行年が『普通学校朝鮮語読本』と近い。この資料の語中の有気音表記は再音素化式表記を使用しており、この表記に対して、‘再音素化式表記された表記は実際の‘ㅎ’の弱化による発音を表示したものと解釈できる。’と述べている。‘중다’は連綴表記と重綴表記の混記があり、有聲的環境では‘ㅎ’を表記している。そして、‘중아하다’ではあるが、有聲的環境では‘ㅎ’が脱落している。このように、二通り存在しているという点からも、語幹を表示するということだけではなく、‘ㅎ’の音が弱くなりつつあることも表わしているのではないかと考える。

朝鮮総督府の「普通学校用諺文綴字法」について、李翊燮(1992:364-6)は、後述する「普通学校用諺文綴字法」の緒言の一項で後世の總論に該当する條項を設けたことを現代國語表記法史に寄与する唯一の点とし、現代國語表記法の形成に貢献するところがほとんどないと述べているが、分綴表記が十分に行われていない点もその理由のひとつであろう。

次に、ㅎ末音名詞の表記の様相を考察する。

ㅎ末音名詞は15世紀の文献には80を超える単語が現われていたが、近代後期には‘ㅎ’が脱落していくものが多かった。(李基文1999:164,218参照)『普通学校朝鮮語読本』にはㅎ末音名詞であった名詞は二十語程度見られたが、すべて、‘ㅎ’を表記していないものであった。固有数詞を除き、確認できたㅎ末音名詞は次のとおりである。

나라ㅎ(国)、싸ㅎ(地)、하늘ㅎ(天)、길ㅎ(道)、내ㅎ(川)、시내ㅎ(溪)、나조ㅎ(夕)、우ㅎ(上)、뒤ㅎ(後)、안ㅎ(内)、드르ㅎ(野)、서울ㅎ(京)、여러ㅎ(諸)、알ㅎ(卵)、고ㅎ(鼻)、암ㅎ(雌)、수ㅎ(雄)、노ㅎ(繩)、집ㅎ(家)

ところで、一例だけ、‘ㅎ’の跡を伝えるものがあることは注目に値する。数詞‘ひとつ(ㅎ나ㅎ)’の表記である。現代語は‘ひとつ(하나)’であるが、それぞれに助詞‘가(가/이)、も(도)’を付けると、現代語は‘하나가、하나도’になり、古語は‘ㅎ나히、ㅎ나토’になる。ところが、巻四 二十一-81-7に‘容貌가과리한盲人하나이、’と記している。李基文(1999:241)によると、現代語では‘하나가、하나도’を認めているが、ソウル方言では、‘하나이、하나토’が存在する。このことは、李翊燮(1992:364-6)が紹介している、1914年3月に公布された「普通学校用諺文綴字法」の緒言の一項の、

1) 京城語を標準とする。

2) 表記法は表音主義に依り、発音に遠い歴史的綴字法等は此を避ける。

および、1921年3月に公布された改正案である「普通学校用諺文綴字法大要」の総説に該当す

る初めの二項の、

- 1) 用語は現代の京城語を標準とする。
- 2) 可及的に発音どおりの綴字法を採用する。

からも理解できる。

上に示した『國民小學讀本』には ‘나라’ と ‘나라히’ が共存し、‘우회’ に対して例示はしなかったが、‘우’ と記したものも見られた。ㅎ 末音名詞の表記が動揺し、脱落していく様子がわかる。

4. 終わりに

子音 ‘ㅎ’ の表記のうち、語中の有気音表記と後に母音が続く場合の表記、そして、ㅎ 末音名詞の表記について考察してきた。語中の有気音表記は再音素化式表記が多く、有聲的環境では ‘ㅎ’ が脱落している表記が多かった。しかし、‘중다’ は連綴表記と重綴表記の混記があり、有聲的環境では ‘ㅎ’ を表記していた。このような点からも、‘ㅎ’ 音が変化しつつある様子を知らることができると考える。ㅎ 末音名詞はすべて ‘ㅎ’ が脱落していたが、‘ㅎ’ の跡を伝える ‘하나이’ という表記が見られた点、注目される。教科書編纂の経緯と表記方針について正しく理解し、表記法全般について理解を深めるために、音韻、文法、語彙についても調べてゆくことが今後の課題である。

注

- 1) 洪允杓 (1993) 参照。
- 2) 佐野三枝子 (1999、2000、2003) 参照。
- 3) 土井忠生・森田武 (1995: 15, 49) 参照。

参考文献

- 李基文 (1999) 『新訂版 國語史 概説』、太學社。
李翊燮 (1992) 『國語 表記法 研究』、서울大學校 出版部。
韓國學文獻研究所編 (1977) 『韓國 開化期 教科書 叢書 1』 亞細亞文化社。
韓國學文獻研究所編 (1977) 『韓國 開化期 教科書 叢書 9』 亞細亞文化社。
佐野三枝子 (1999) 「學部 編纂 國語 教科書와 修身・倫理 教科書の 指示語에 대하여」『國際高麗學』5、71-87. 國際高麗学会。
佐野三枝子 (2000) 「開化期の 學部 編纂 네가지 教科書에 보이는 原因・理由를 나타내는 接續表現에 대하여」『東アジア言語研究』4、45-60. 東アジア言語研究会。
佐野三枝子 (2003) 「話法 動詞에 보이는 漢字語와 固有語의 共存」『東アジア言語学会』6、1-17. 東アジア言語学会。
土井忠生・森田武 (1995) 『新訂國語史要説』、修文館。
洪允杓 (1993) 『國語史 文獻 資料 研究』、太學社。

<付録> 資料

『普通学校朝鮮語読本』に見られる語中の有気音表記と有声的環境での‘ㅎ’の表記

単語ごとに各用例と、その巻数、課数、頁数、行数を示す。単語は、まず現代語を提示し、() にその古語を示すが、古語の가나다順に従う。『普通学校朝鮮語読本』巻一から巻三までは、助詞は名詞と離して書いているが、ここでは、名詞に付けて提示する。

1. 有気音表記

(1) 再音素化式表記をした例

1) 動詞

1 잡다 (잡다, 잡ㅏ다, 잡ㅎ다, 가ㅏ다)

어느새나잡힐가. 卷四 二十五92-9 恩惠를잡하, 卷五 三13-8

2 넓히다 (넙다 / 너피다) 넓히고 卷四 二十五91-9

3 덮다 (덥다, 덥ㅏ다, 덥ㅎ다) / 덮히다 (뎡히다, 더피다)

江面을덥혀서 卷四 十二41-1 한발로 덥혀놓넛소 卷五 二十二78-9
눈에 덥혀서 卷二 二十三63-5 윈집 안에 폭 덥혔소. 卷三 二十63-7
蔓草에뒤덥힌宮殿·寺刹의礎石과 卷五 二十五96-3

4 맡다 (맡싸다) 맛하보고, 卷六 二十84-6

5 먹히다 (먹키다, 머키다 / 머기다, 먹이다, 먹기다) 먹힐가 卷二 二十53-2

6 박히다 (박키다) 계슈나무 박혔스니, 卷三 十四38-1

7 붙다 (붙다, 붓다, 붙다, 붙ㅏ다, 붙ㅎ다)

붙혔고 卷二 二十六22-4 붙혔소 卷二 十26-7 붙흔脂肉을 卷六 二十六106-5

8 삭히다 삭혀내여서, 卷六 一1-5

9 살피다 (살피다, 솔피다)

밭도 살혀보고 卷三 八21-3,4 仔細히 살혀본즉 卷三 二十三72-8 左右를~
卷五 二十二78-2 개의形跡을살혀보니, 卷四 十八67-4 動靜을~ 卷五 三8-8
굽어살히사, 卷四 二十76-2,3 굽어살혀 주십시오. 卷四 十九71-4 仔細히살혀보
다가, 卷四 二十一81-8

10 슬퍼하다 (슬퍼ㅎ다, 슬혀ㅎ다)

銃마저죽은것을슬혀하야, 卷四 二十三88-3 슬ㅎ다, 卷六 二十四100-6

11 식키다 (식히다)

내가 식히는 것이면 卷一 五十八65-4 傳染식히는 일이 卷四 七24-8 調和식히
는힘이 卷五 十七66-3 말을 식힌즉, 卷三 十九58-8 말을 식히고 卷三 十九
59-7 말을 식히라 하되, 卷三 二十60-8 말을 식히며 卷三 十九55-9 모다
植木을 식혀보겠다. 卷三 一5-7 傳染식혀서, 卷五 七30-6

12엷히다 (엷치다) 우리의몸에엷첫스나, 卷六 五21-2

13웁다 (웁프다) 이景致를웁흠인가. 卷六 八34-1

14웁다 일허버린 地方이 卷五 十七66-1

15잡히다 (잡피다, 잡피이다, 잡히이다, 자피다, 자피이다)
잡히고십다 卷三 二十七80-1

16지키다 (디키다, 디피다, 디히다, 디희다, 디키다, 디피다)
직히고 卷二 十五36-7 萬一禮儀를직히지아니하면 卷五 二十三82-5 禮儀를직히
지아니할것갓흐면 卷五 二十三85-6 사람사람이직혀야할道理이오. 卷六 十五55-9,
56-1 이公德을직힘에잇는것이오. 卷六 十五56-2 반다시직힐이라. 卷五 二十三
82-4,5

17집다 (딛다, 딛프다, 딛ㅎ다) / 집히다
되집허돌아왓소. 卷四 三10-1 우물이뒤집혀서 卷五 二十二77-9

18흠어지다 (흠터디다, 흠터디다, 흠터디다) 구름은흠허지고, 卷六 十37-6

2) 形容詞

1 같다 (근다, 근다, 근다, 근트다)

水中에서生活함과갓하서, 卷五 十八69-4,5 風樂갓흐니, 卷六 八33-6 菁根과갓
흐며, 卷六 十六60-4,5 禮儀를직히지아니할것갓흐면 卷五 二十三85-6 相同할
것갓흐면, 卷六 二十七109-8 天然히 산 것 갓하소. 卷三 六18-3
여을 갓흔 쉰 물겉에도 卷二 十一24-5 白玉 ~ 흰 쌀일세 卷二 二十二56-3 쪽
~ 개 卷二 二十七74-6 냉이 달내 ~ 여러가지 나물을 卷三 四11-2,3 밤 대초
감 ~ 실과를 짜서, 卷三 十二35-6,7 박과 ~ 큰 알이 卷三 十七49-2 박과 ~
알 卷三 十七50-2 傷하는것~일은, 卷四 一4-1 이 ~ 더위에 卷四 九26-8
울~큰물은, 卷四 十七64-7 流水~歲月이 卷四 二十72-7 星火~督促을 卷
四 二十72-9 大關~큰집으로 卷四 二十一77-7 먹서리 ~ 것을 卷三 二十四
77-2 맷방석 ~ 것을 卷三 二十四77-4 나~것을 卷五 二十二81-1 빈대~벌
어지들은 卷四 七24-7 주먹~큰비방을 卷四 八25-9 毛氈~芳草를 卷五 三8-6
이와~迷信에 卷五 十三51-3 石油筒~廢物은 卷五 十三52-1 너~것은 卷五 二
十二79-8,9 나~것을 卷五 二十二81-1 너~눔은 卷五 二十四89-9 虎列刺~
傳染病等도, 卷五 七30-1,2 流水~歲月이 卷五 九35-9 헌겉~것으로 卷五 十三
53-9 실과~細流가되어, 卷六 五17-7 거울~水面을 卷六 五18-3 天然痘와
~苦痛을 卷六 六22-7 雪花~白花가 卷六 十三48-4 流水~歲月도, 卷六 二十四
98-8 바늘~細尖物이 卷六 二十六106-5 芋와~것이, 卷六 十六60-4,5

2 곱프다 (곱프다, 곱프다, 곱파다, 곱프다, 곱프다) 배급하우네 卷五 十四56-6

3 굵치다 (굵치다, 굵츠다) 힘써서굵치지아니하면, 卷五 二十六99-6

4 깊다 (깊다, 깊프다) // 깊이 (깊피, 깊피, 깊히, 깊희, 기피, 기피)
밤은 깊혀 적막하고, 卷二 十六40-4 밤은깊혀 卷六 十九77-1 물이깊혀서, 卷四

二十四89-4 버들장막 집흔 속에 卷二 六3-6 ~山中에 卷三 十三71-5 ~山中으로 卷四 二十三86-2, 卷五 六24-6 noop고도~先生님의큰恩惠 卷四 二十五92-8 그婦人의뜻이~것을 卷五 十三53-7
잡이깊히들었소. 卷五 三8-6 물을~먹음엇다가, 卷五 十七64-7,8 ~알아주리라. 卷五 二十四89-5 ~窮究한지 卷六 三11-3, 地中에~ 卷六 五16-8 ~研究하야보는 것이 卷五 十三55-1,2

5 높다 (nop다, nop다, nop다, nop다) / -아지다 // 높이 (nop히)

바람nop하니, 卷六 十37-4 恩德이nop흐신獅王님이시여, 卷五 十三13-2 nop하질 卷五一8-9,9-1 그 nop히가 卷三 十一31-6, 卷五 十一42-8, 十六60-8 그~는 卷五 十六58-2 국기를 nop히 달아서 卷二 十八48-2,3 종달새는 空中에 ~ 쫓다, 卷三 四10-9 매우 ~ 쫓였소. 卷三 八25-9 ~ 나갓다가, 卷三 八23-8 나뭇가지에 ~ 안저서, 卷三 十四41-4 ~솟은瞻星臺 卷五 二十五93-4 名譽를~ 卷六 二5-9 空中에~올으게되는것이오. 三9-9
朝鮮의 第一 nop흔 산이오. 卷三 十一31-7 주위에는 ~ 城을 둘러쌌스니, 卷三 十二68-4

6 싶다 (ship다, ship다, ship다)

잡히고ship다 卷三 二十七80-1 말을 하고 ship나 卷二 二十52-5,6
玩賞하고ship흔生覺을 卷五 一6-6,7 出世하고~生覺을禁치못하야, 卷六 五17-1
奇別하야들이고~生覺은 卷六 十六64-8,9 들여복가고ship가. 卷六 二十四100-1

3) 名詞

1 거푸집 (geppu집) 집흐집으로들어가, 卷六 十九78-5

2 곁 (geot) 우물 곁해 卷三 十七6,7 곁해가서 卷五 三8-8

3 꽃 (kon, kon, kon, kon, kon, kon)
꽃헤잇는데, 卷六 一3-5 벌어지는꽃해서 卷六 一2-8,3-8

4 끝 (kon, kon, kon, kon)
꽃해 卷三 二7-2,3

5 옆 (nep, nep, nep, nep)
복남이는 nep해서 卷一 五十七63-4 바구니를 nep해 끼고 卷三 三9-2

6 잎 (nep, nep, nep)
나무nep히 卷四 八26-2 그밋희nep히 떨어지고, 卷四 十30-9 풀은nep흔, 卷五 二4-7 nep흘싸고, 卷四 十31-4,5

7 밋 (mit, mit, min, min, mit, mit)
밋해 안저서 卷三 九29-4,5 그밋희nep히 떨어지고, 卷四 十30-9 큰 나무 밋해서 卷三 十三71-7 山밋희로 卷六 五17-7,8 습풀~ 五18-2

8 밋 (mit, mit, mit, mit)
뒤밋해다가 卷四 十四50-5,6 풀밋해편다. 卷五 十四56-1

9 별 (별, 벛, 벛츠, 벛트, 벛ㅎ) 벛헤에 내여눗키도 하시고, 卷三 十五43-3

10 빛 (빛, 빗, 빗츠, 빗즈, 빗ㅎ) 아침해빛헤 卷三 五20-8

11 앞 (앞, 압, 앞, 압프, 압ㅎ, 앞프, 앞ㅎ)

압헤 노코 卷三 二十60-5 어머니와 누님의 ~ 卷三 十七55-8,9 ~쿠리고안져서, 卷五 二十二78-3 맨압헤서 卷二 二十七73-2 어머님~ 卷四 二8-2 사람의~ 卷五 二十三83-5 압헤는影島가가로노옛나라. 卷四 二十四89-2,3 압호로 卷三 八23-8,9 ~나아가 卷四 五14-4 此地는~鴨綠의大江을臨하고, 卷四 十一37-2 그~ 卷五 二十二78-7 압흘못보아서그랫구려. 卷四 十九69-3 사람의~通過할새에, 卷五 二十三83-3

12 이틀 (잇틀, 이틀, 이틀)

잇흘쑤은 卷四 十四51-5,6 잇흘이나 缺席을 하시는 故로 卷三 二十65-1,2

13 짚 (딛프, 딛ㅎ)

집히 效用 卷三 二十四76-6,77-4 집흔 벼를 썰고, 卷三 二十四76-7

(2) 連綴表記および重綴表記をした例

1) 動詞

1 낳다 (낳다, 낳다, 낳ㅎ다)

2) 重綴表記 알을 낳코 卷一 六十一70-4 이몸낳키는 卷四 二十五92-4

2 넣다/ 집어넣다

2) 重綴表記 封套에 집어넛코, 卷四 一6-4

3 놓다/ 내여놓다/ 들여놓다/ 세워놓다/ 절여놓다/ 터놓다

1) 連綴表記 압헤 노코, 卷三 十七55-9 쌍에 ~ 卷三 十七56-8 돈을 만이 내여노코 卷三 十七58-7 각시를 세워노코 卷二 二十三61-3

2) 重綴表記 터눗키도 하오. 卷三 八21-6,7 벛헤에 내여눗키도 하시고, 卷三 十五43-3 들여눗키도 하시면서 卷三 十五43-4 절여눗코, 卷四 十四49-8 눗치 아니하얏소 卷二 十九53-5,6

2) 形容詞

1 그러하다

1) 連綴表記 그러케 卷二 二十七73-5, 卷三 一1-8, 十四41-4, 卷六 二十三95-5 그러케하면 卷六 二十一90-5 그러타. 卷三 二十三76-4, 卷四 六21-9 그러튼지, 卷四 十四51-8 그러치만 卷四 十四49-2, 卷五 三13-9,14-1 그러치아니하고, 卷六 二十三94-6 그러치안으면, 卷六 十五58-8

2 귀하다 (귀ㅎ다)

1) 連綴表記 귀치안튼 卷二 十七43-1

3 많다 (만ㅎ다)

1) 連綴表記 붉은 산이 만타. 卷三 一2-9,3-1 강한놈이~ 卷五 二十二80-9,

81-1 海岸의屈曲이자못만코 卷四 三13-4 嘔吐를하는일이~ 卷四 七23-7 매우~ 卷四 十一39-2 産出도~ 卷六 八4-7

4 맑다 (맑다, 뽀다. -아하다)

1) 連綴表記 맑아케 卷二 十五38-1

5 점잖다 (점다, 꺾다. -지아니하다)

1) 連綴表記 점잔키도하오 卷三 二十七81-1

6 아무렇다 (아프라타, 아므라타)

1) 連綴表記 아모러케떨어도, 卷五 六27-9

7 앓다 (아니하다)

1) 連綴表記 답도안코, 卷三 十二35-3 쉬지 ~ 卷三 十四42-3, 卷六 五19-9 對答도 ~ 卷三 二十三74-1 가라안지안코, 卷四 二十一77-5 깃뻛하지~, 卷四 二十一77-7 勞力을앗기지~, 卷五 二十六98-9,90-1 생각도~, 卷四 十六55-4 勤勞를실혀안코, 卷六 二7-2 어렵지안타만은, 卷四 二十七4-4 적지~하오. 卷四 十二41-4,5 濫用치안토록하는것이니라. 卷五 二十六99-2,3 귀치안튼 卷二 十七43-1 잘닉지안튼지하면, 卷四 十四52-4 偉大하다아니치못할지니라. 卷六 六25-1 祭를차리지~못하얏소. 卷五 十二50-1

8 어떻다 (엇더하다)

1) 連綴表記 엇더케 하오. 卷三 五13-5, 二十三73-7,8 卷六 二十四100-6 ~ 되엇습니가 卷三 二十三75-3 ~하라고. 卷五 二十四87-7,8 ~하야되엇는지, 卷五 二十七3-3,4 ~하든지 卷五 四16-4

9 울다

1) 連綴表記 울타. 卷三 二十三76-4, 卷五 二十四91-4 울타, 卷四 二十五92-2, 卷五 二十四91-4 울케 卷六 二十83-3 울치, 卷五 二十四88-3 울치안은 卷六 二6-4

10이렇다 (이러하다)

1) 連綴表記 이러케 卷四 十五53-4, 卷六 一2-5 ~하기를 卷六 三8-6,12-5,6

11일다

1) 連綴表記 소 일코 卷二 七16-4 信用을일코, 卷六 四15-8,9

12저렇다 (저러하다)

1) 連綴表記 저러케 卷二 十三31-34, 二十七71-3,5 卷三 五16-1, 卷六 二十四101-5

13좋다 (똥다, 좃다)

1) 連綴表記 조켓습니다. 卷三 一4-3, 十31-7,8 매우조켓소. 卷四 十四52-1 똥기 조타 卷二 九21-3 목청 ~ 卷二 十六40-6 기운 ~ 卷二 二十六69-6 香氣 ~ 卷三 四12-2 宜도 ~ 卷四 十四47-2 조코

조치아니한 것이 卷二 十二29-1 맛도조코, 卷四 七23-2 조치못
하니라. 卷四 十31-4 조치못한일이오. 卷四 一4-1 맛도조치못할
卷四 七23-4

2) 重綴表記 좃켓지 卷五 三10-9,11-1 듯기도 좃타. 卷五 十四56-9

14 -지 못하다 (못ㅎ다) /-지 아니하다 (아니ㅎ다)

漢字語の場合に生じる表記であるため、用例数が多い。その一部だけ提示する。

1) 連綴表記

動詞

奔慰치못하옵고, 卷四 二十二84-4 便치못하다하시드니, 卷四 十七62-4 富치못
할줄을 卷五 二十二79-1 盈筐치못하드니, 卷六 三8-5 欺치아니함을 卷六 四
14-3 出世하고십흔生覺을禁치못하야, 卷六 五17-1 納付치못할지라. 卷六 十二
46-9,47-1 行치못하시고, 卷六 七28-5 發達치못하고, 卷六 十三51-2
傷치아니하얏스니, 卷四 十七64-3 避치아니합니다. 卷四 十九70-7 履行치아니
하면서, 卷六 十二47-3,4 濫用치안토록하는것이니라. 卷五 二十六99-2,3

形容詞

귀치안튼 卷二 十七43-1

15펴렇다 (펴러ㅎ다)

1) 連綴表記 펴어케 卷二 九22-2, 卷三 一4-3

16 -케 하다 /-코

漢字語の場合に生じる表記であるため、用例数が多い。以下にその一部だけを提示する。

1) 連綴表記 便利케하니, 卷四十一39-7 流下케하오. 卷四 十一40-8 回生케하
고저 卷四 二十三88-3 追憶케하오. 卷六 八32-9 買入코저하오
니, 卷四 十五54-1 伴行코저하오니 卷五 三7-1 研修코야잇스리
로다. 卷六 二6-1
결단코 먹지 안을 터이니 卷二 十九52-4,5 決斷코혈후하게녁이지
말고, 卷五 十三54-9, 二十三84-2

2. 有声的環境で‘ㅎ’が脱落している例

1) 動詞

1 넣다 (넣다) / 집어넣다 郵便筒에너엇섯소. 卷四 一7-1,2 집어너어야 卷四 四14-4

2 놓다 (놉다, 놉ㅎ다) / 세워놓다 / 씻어놓다 (씻다, 싣다, 싣다) / 파놓다 (푼다) / 띄놓다 (띄다) // 놓이다 (노히다)

노아달나고 卷二 十九52-5 銃을노앗드니, 卷四 二十三86-7,8
무를씻어노앗는대, 卷四 十四49-9 띄노은것갓소. 卷四 十一38-2,3 陸地에파노
은한적은 卷五 二十二80-4 銃으로 노으라고 하닛가, 卷三 二十三73-2,3 어린
兒孩를 노으면, 卷三 二十三73-8 銃을 노은즉, 卷三 二十三74-2
세워노은것과 卷五 十六58-3 吐하야노은酸素는 卷六 一4-6 가로 노였으며, 卷
三 二十二68-2 압혜는影島가가로노였나니라. 卷四 二十四89-2,3

2) 形容詞

1 많다 (만ㅎ다) // 만이 (만히, 만이)

古寺가만아서, 卷五 十六2,3 甚히 만앗소. 卷三 十七56-1, 卷六 一3-3 만앗스나,

六24-1,25-1 慾心이 만든 개 卷二 二十八74-1(題目) 慾心이 ~ 고로, 卷二 二十九75-2,3 救助하는 일이~故로, 卷四 一7,8 ~것이오. 卷五 十二51-6 所用되는데가~것인데, 卷五 十三53-8 薰陶됨이~고로, 卷六 十八74-5 ~돈을 卷六 二十七112-3 便宜가~江도잇소. 卷四 三12-4,5 그種類가만으나, 卷四 十三45-6 사람이만으니, 卷五 十六58-9,59-1 일이~, 卷五 二十75-7 陰影이만으니라. 卷五 十五57-8 크게한사람도~, 卷五 二十六99-9,100-1 慾心이 너무 만으면 卷二 二十九77-1,2 傷한테가만으신模樣이올시다그려. 卷四 十七64-9 人情~귀님, 卷五 四16-7 傳染식히는일이만은대, 卷四 七24-8,9 만이 卷二 九19-5, 十22-5, 十二28-1, 十六42-5, 二十二57-3, 二十三61-3 卷三 一4-2, 三11-4, 五14-1, 十三71-1, 十四43-1, 十七56-4,5, 十九58-7 卷四 三12-8, 13-6, 七23-9, 十七63-9, 二十四89-5, 卷五 十40-5, 十七65-8,9 卷六 一1-6, 十五56-6, 八29-9, 二十七119-5,110-4,111-8

2 아니하다

갈지안으면, 卷五 二十一76-1 그러치안으면, 卷六 十五58-8 올치안은 卷六 二6-4

3 점잖다 점잔으닛가, 卷五 二十四89-4

4 좋다 (똥다, 좃다) 日氣가 조와서, 卷三 十六45-9

5 좋아하다 (도화하다)

조와하는食物 卷六 一2-2,3 학문을 조와하시고 卷六 七26-4 조와하며, 卷五 二十六101-3 조와하면서 卷一 六十八68-4 조와하얏소. 卷三 八24-6, 卷四 四十四49-4, 卷五 二十五91-8 조와하얏스니, 卷三 十四41-9

3) 名詞

1 너희 (너희, 너희, 너희) 너의들 卷三 一2-1

2 저희 (저희, 저희)

저의 卷五 二7-8 저의들 卷三 一2-2,4-1 저의들은 卷三 一4-1

3 올해 (올ㅎ) 올에는 卷四 十四50-5

3. 有聲的環境で ‘ㅎ’ を表記している例

1) 動詞

1 싫어하다 (슬하다, 슬회여하다, 슬회다)

健康함을그누가실혀하리오. 卷五 七29-7 納稅하기는실혀하면서, 卷六 十二47-1,2 勤勞를실혀안코, 卷六 二7-2

2 싸호다 (사호다, 싸호다) 싸홀수도 卷六 二十84-3

2) 形容詞

1 좋다 (똥다, 좃다)

조흔 것을 卷二 二十二29-3, ~ 소리가 卷二 十六41-4 ~ 악물이라도 卷二 二十九29-4 참 ~ 일이다. 卷三 一2-8 景致가 ~ 곳이라 하니, 卷三 九30-5 第一 ~ 名節인데, 卷三 十二33-9,34-1 그 중 ~ 쫓츠로 卷三 十六45-1,2 가장~일

『普通学校朝鮮語讀本』の表記について (佐野)

이오. 卷四 一3-5 ~港口라할만한것은 卷四 三13-2 매우~일리오. 卷四 七24-4
살기~곳이라고 卷四 十一34-6,7 ~수가잇소. 卷四 十九69-4 沈淸은~말로 卷
四 十九70-6 ~道理가업섯소. 卷四 十九71-7 부처님을속이는것이~것을, 卷四
二十74-7 이갓치조흔 卷五 一5-1 자랑하는~花園도 卷六 二5-7 親하기~이
時節, 卷六 十38-5 참~말삼이오. 卷六 十九77-7
日氣가조흐나 卷二 十九50-2 가장조흐니, 卷四 十31-1 매우조흐며 卷四 十一
36-1 日氣가 조흐면 卷四 二5-4

3) 名詞

1 싸움 (싸흠) 눈싸흠 卷二 二十三65-5

2 종이 (조희, 조히, 종희, 종히)

조희노신을 卷五 十三52-5,6 조희는所用되는데가만은것인데, 卷五 十三53-8

4) 副詞

1 너울너울 各色草木너울너울 卷四 八26-8